

図書館友の会 ニュース

発行 岸和田市図書館友の会

《発行責任者 杉原 富人》

2026 年
10 月号

No. 40

2026 年「文学歴史散歩(バスツアー)」

11 月 18 日(水) 開催

大阪府立近つ飛鳥博物館・弘川寺へ

大阪府立近つ飛鳥博物館を訪問し、百舌鳥・古市古墳群 - 古代日本の墳墓群 - が世界遺産に登録された背景および前方後円墳国家成立過程を実地見聞します。また、歌人・西行法師が永眠した弘川寺を訪問し、西行にまつわる絵画、書、資料などを実地見聞します。



近つ飛鳥博物館



弘川寺

【集合場所】 ① 図書館本館(岸城町)前 = 8 時 20 分

② 南海岸和田駅東側(第 1 ゼミナール前) = 8 時 40 分

【参加費】 5,000 円 昼食/弁当は各自持参してください。

【定員】 37 名(申し込み先着順)

【申し込み】 10 月 15 日(木) 10 時より図書館本館で受付。
直接または電話(072-422-2142)で申し込んでください。

※・図書館本館前発 8:30⇒南海岸和田駅東側(第 1 ゼミナール前)発 8:50⇒大阪府立近つ飛鳥博物館着 10:30【同館見学約 1.5 時間¹⁾】同発 12:15⇒弘川寺着 12:40【昼食*, 本坊庭園・西行記念館見学】同発 15:00⇒道の駅いずみ山愛の里着 16:00/同発 16:30⇒南海岸和田駅着 17:10⇒図書館本館前着 17:30

※ キャンセル料 = 11 月 12 日～16 日は参加費の 50%、実施前日及び当日は全額。

* 11 月 18 日時点で有効な「年間パスポート」(「弥生文化博物館」と「近つ飛鳥博物館」共通)をお持ちの方は、申込時にお知らせください。

第28回 図書館まつり

10 月 25 日(日)に開催(図書館本館 10 時～)

「図書館友の会」は、例年通り、3 階自習室で「古本市」を担当します。どうぞご利用ください。

3 階視聴覚室では、「戯曲教室」メンバーによる朗読劇(シェイクスピア作『ハムレット』)も実演します(10 時 30 分～11 時 30 分)。

午後 1 時から落語倶楽部「笑泉会」による出前寄席(落語 6 席: 約 2 時間)も開かれます。お楽しみに。

図書館友の会 各教室の公開講座のご案内

図書館友の会の各教室では、図書館との共催で公開講座を実施しています。会員以外の皆さんもぜひご参加ください。参加費はいずれも無料です。

それぞれ受付開始日の10時より図書館本館で受け付けます。※電話（072-422-2142）

◆「岸和田再発見教室」公開講演会

○ 大園遺跡の展開と和泉北部の首長墓系譜 ―摩湯山古墳出現の歴史的意義―

講師：三好 玄 氏（府立弥生文化博物館 学芸総括）

大阪府泉大津市・和泉市・高石市にまたがる大園遺跡は、国史跡池上曾根遺跡とならぶ和泉北部の重要遺跡です。長年にわたる発掘調査によって旧石器時代から中世におよぶ多くの成果がもたらされました。古墳時代前期末に属する大量の埴輪片の出土はこの地域の古墳築造の展開を理解する上でとりわけ重要です。これらの埴輪が何を目的として、誰によって製作されたのかを検討し、和泉北部と王権のかかわりについて考えます。

日時：11月28日（土） 13:30～16:15 定員 80名（申込み先着順）

場所：八木市民センター（池尻町）2階 講座室1 10月28日（水）より受付

* 駐車スペースが狭いため、自動車でのご来場をご遠慮ください。

○ 岸和田城とその城下―室町時代から戦国時代へ―

講師：仁木 宏 氏（大阪公立大学大学院文学研究科・教授大阪歴史博物館館長）

岸和田城ははじめ岸和田市野田町（南海岸和田駅南方）に築かれました。その様子は古地図と発掘調査によって明らかになる。戦国時代、城は現在の岸和田城の地に移転。城下町を伴うようになり、岸和田は堺や大坂を守るための和泉国における最重要拠点になりました。講演では、岸和田城と城下の変遷を、和泉国とその周辺における政治情勢の変化から読み解きます。

日時：12月5日（土） 13:30～16:15 定員 100名（申込み先着順）

場所：岸和田市立図書館本館3階自習室 11月5日（木）より受付

参考図書：『岸和田古城から城下町へ』（大澤 研一/仁木 宏 編著、和泉書院）

◆「文章教室」公開講座

○ あなたにも私にもできる文章表現

講師：倉橋健一 氏（詩人・文芸評論家） 東野 岬氏（詩文家）

初めて書く人も経験を積んだ人も互いに自由に、また生活記録から小説のようなフィクションも含めて、自由に書き互いに聞く側にも回って意見を出し合ひましょう。

日時：2026年11月21日（土） 13:30～16:00

800字以内の原稿を自由に書いて持ち寄ります。（無くてもOK）

場所：図書館本館（岸城町）視聴覚室（3階）

定員 30名（申込み先着順） 11月4日（水）より受付

◆ 戯曲教室公開講演会

○ 悲劇の名作 『ハムレット』 ～翻案脚色と演出についてのあれこれ～

講師：井之上 淳 氏（劇団五期会副代表、大阪芸術大学短期大学部非常勤講師）

当初、劇団五期会版「ハムレット」は、ドイツの劇作家・演出家であるハイナーミュラーの「ハムレット・マシーン」から想を得た、権力者のエゴと愛憎の物語になるはずだった。ところが、2022年3月16日、ウクライナの劇場がロシアからの空爆により破壊され、大勢の市民が犠牲

になった。あの出来事から「ハムレット奇譚」というタイトルと物語が生まれた。どうやら「ハムレット」は、チャーホフの作品にも影響を及ぼしているらしい。

日時 2027 年 1 月 10 日(日) 13:30~16:00

場所 岸和田市立図書館本館(岸城町), 自習室(3 階)

定員 50 名(申込み先着順) 12 月 10 日(木)より受付。

公開講座・講演会の感想

「友の会」各教室が開催した講座・講演会の感想を紹介します。

詩の教室 「詩と小説の^{あわい}間」 7 月 5 日開催 講師：倉橋健一 氏

今回を機に、井上靖のいくつかの詩集を読んだ (青野 潤子)

雨の中、飛び入りも含めて 13 名参加で行われました。詩人で小説家である方は多くいますが、今回は井上靖の詩集『北国』を参考に倉橋先生のお話を聞きました。井上靖の小説は何冊か読んでいましたが、今回を機会に初めて彼のいくつかの詩集を読みました。

すべて散文詩。あとがきで「自分の作品は詩というより、詩を逃げないように閉じ込めてある小さな箱のような気がした」「詩とは厳しく言えば、恐らく呪術であり、呪術そのものに違いない。私はついに呪術を発見できなかった詩人だ」とありましたが、彼の小説においても、この詩人の眼で書かれていたように思われました。

歴史小説においては、司馬遼太郎が多くの資料をもとに書いたのに対して、井上靖の作品は、彼の眼で書いたフィクションです。と、倉橋先生。

後半は参加者自作の詩、5 作品の合評会。若い方の参加を見込んで、日曜日に開催したのですが、残念ながら、7, 80 代の面々。ただ、1 人中学生が。熱心にメモを取っていました。

心のどこかに何時も彼の作品がある。 (皆見 眞砂子)

取り上げられた作家は井上靖。彼は、小説家として有名ですが、作家デビュー前に数多くの散文詩を残した詩人でもある事を改めて学びました。そしてその散文詩を、そのまま小説に転用し、ストーリー性を持たせ、詩とは別の作品として人間の心理を追求し、作品を読む読者に、複雑な愛憎と心の闇を心理的に訴えた小説が「猟銃」だそうです。井上靖の詩や小説は、今も多くの方に読まれています。詩を書いて後、小説を書いた他の作家もおられるようですが、同じタイトルで詩と小説を書いた方はいないようです。

私は学生時代、彼の「あすなる物語」に夢中になり、そして「氷壁」「敦煌」。今は「陀落渡海紀」等、年を経る度、心惹かれる彼の作品は変わるが、心のどこかに何時も彼の作品がある。公開講座楽しく学びました。

◇ **岸和田再発見教室** 近世岸和田地域の入り組み支配 8 月 8 日開催

講師 里井 洋一氏(琉球大学名誉教授)

「教育とはいかにあるべきか」を考えさせられた (西村 文宏)

光陽中学社会科クラブ顧問の先生の「現在の岸和田市域は果たして全てが岡部落領だったのか」という素朴な疑問に対して、里井先生を含めた当時の中学生のメンバーたちが著名な郷土史家の家まで出向いて教えを請うたり、『大阪府全誌』という大正時代に出版された、旧字体を読解するのも難しい大著と格闘しながら、ついには「岸和田地域の入り組支配図」を地図と変遷表によって完成させました。現在の岸和田市域は全て岡部落の一元支配ではなく、非常に複雑な支配体制下(複数の領主が分割して支配するという、入り組み支配や相給と呼ばれる)にあったことを明らかにしたのです。

里井先生はこの時のご経験を通して、ただ与えられた知識をそのまま積み重ねていくだけが歴史教育ではなく、「なんか変だな、これは本当か？」という精神を大事にし、仲間が相互に対話しながら疑問を追求していく知の営みこそが学びの本質だと語られました。里井先生のご専門は東アジアの歴史と歴史教育と伺いましたが、この中学時代のご経験が先生の研究生活の出発点になっていたのでしょうか。だからこそ歴史に限らず、多感な時期の子どもたちへの「教育」とは如何にあるべきかを考えさせられるご講演でした。

知識伝達中心の教育から、個性や創造性を重視する教育へ (芝原 歌代子)

最初に里井氏は1990年代の日本では教育観に大きな転換が見られたこと、それまでのと変換したこと。将来にわたり子供一人ひとりが自立して生きていく力を育てるために、知識の暗記ではなく、問題解決学習やグループ活動の導入により、協調性やコミュニケーション能力の向上も目指したこと。現在の日本の教育の基盤を作る重要な時期となったことなどを話されました。

岸和田地域では岸和田藩を中心としながらも、幕府領・旗本領・寺社領などが入り組んで複雑に配置されており、地域によって支配者が異なっていました。里井氏は1970年代前後、光陽中学校社会科クラブで学んだ「入り組み支配」の実態を、『大阪府全志』の岸和田領主変遷部分関連資料付加を通して説明。藩主が年貢の徴収や村の行政を行い、庄屋などの村役人を通して農民を支配したことなど、自分の経験を振り返り、歴史教育のあり方について提起されました。

地名の秘密

③⑦ 助平(すけべえ)

昔、ものすごくエッチな「助平さん」という実在の人物がいたのでは？
なんて想像したくなりませんか

今回から語感・字面に「えっ?!」由来を知って「へえ〜!」というニッポン珍地名を書かきたいと思います。その第一として助平(すけべい)を取り上げました。

助平は、ことばの由来が気になりますよね。助平は、今では好色な人や、いやらしいことを表す、くだけた言葉です。「助平(すけへい・すけべい・すけべえ)」の言葉が使われています。助平の地名は愛知県の豊田市豊松町助平(とよたし、とよまつちょうすけへい)にあります。郵便番号も444-2203(豊松町地域)がつけられています。読み方は助平(すけへい)です。「すけべい」ではありません。助平は江戸時代のおしゃれな言葉遊びから生まれたもので、地形、古い言葉遊びに由来する真面目な地名なのです。青森県八戸市には「美濃助平(みのすけたいら)」という小字があります。富山県立川町には「内蔵助平(くらすけたいら)」という地名もあります。

地名は、開拓に関係した人物や所有者・名主の名前等によるケースが一般的です。地形は平坦な土地を表す「平(たいら・だいら・ひら)」に人の名前や官職名が組み合わさり、時代と共に字があてられるものが多く、下ネタや現代の俗語とは無関係なのです。

当時江戸では異性や色ごとが好きな状態を「好き(すき)」と呼んでいました。当時の男の人に、よく使われていた名前の語尾「〜兵衛」をくっつけたのが始まりです。

好きのすきが音変化してすけになり、そこに男性名でよく使われる、兵衛や平がついて、すけべえになり、さらにすけべに縮まったとする説が紹介されています。

【参考資料】『大阪難読地名がわかる本』創元社。『47都道府県地名の謎と歴史』kkベストセラーズ『日本の地名、おもしろ雑学』三笠書房 浅井健爾著「知的生き方文庫」

【文責】 文章教室 浦田榮二